

## 早月加積地区の主な提言等と進捗状況

提言等の項目	H24春に開催した「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
コミュニティバス	魚津水族館前まで行っている理由は？魚津水族館前からバスを利用して滑川に来た実績は？	本市と同様、魚津市もコミュニティバスを走らせており、乗り継げるよう利便性を図っています。水族館前からのバス利用実績は手元に資料がないので答えようがありませんが、車のない方から魚津水族館までどうやって行けばよいか問合せがあった際、JR滑川駅からコミュニティバスで行けると紹介した実績はありますので、車のない高齢者等の観光にも利用していただけるものと考えています。
市職員の姿勢	コメリ魚津店入口の真正面に「滑川市」と書いた車が堂々と停めてあったが、新川文化ホールの駐車場に停めるべき。また、職員が店内で野菜苗を見ているのを目撃した。庁用車を私物化しているのでは？	野菜苗を見ていたのが市職員かは分かりませんが、市職員が草刈り等の資材を購入するためにコメリに行くことはあります。誤解を招かない行動をとるよう注意いたします。
津波対策	県の津波シミュレーションの結果、3000～5000年に一度とのことなので、ハード面の整備はナンセンス。防災ではなく減災対策を。過去に防災行政無線の個別受信機を市幹部、議員、学校、消防団分団長以上に93台配布したはず。これを沿岸の町内会長に配布できないか。	3000～5000年に一度とのことですが、堤防が持ちこたえても30～40の家屋に被害、死者も数名出るとの予想なので、防波堤のかさ上げは国・県に要望してまいりたいと思います。またソフト面では、避難訓練など避難意識を皆さんに持っていただくような啓発活動も進めていきたいと思っています。津波について詳しくは、6月号広報で特集を組んでお知らせします。また、防災行政無線の個別受信機は過去に配布しましたが、特注品で高いので、全国的に普及している防災ラジオを希望者に1台あたり2千円負担していただき配布することとしています。
災害情報配信サービス	災害情報が直ちに携帯電話に届くサービスなので、登録者増の方策を。	現在700～800名の登録者に留まっているので、定期的に広報で登録を呼びかけており、引き続きPRに努めていきます。
海拔表示	かなり海拔表示が増えたが、栗山など海拔の高い地域には不要。その費用があれば、海拔の低い地域の表示枚数を増やしたり、海拔だけでなく避難場所も表示しては。	これまで地区公民館、自治公民館、電柱に海拔表示を行い、今年度は町内会のごみステーションへの表示も行う予定としています。また、避難場所の表示についても考えてみたいと思います。
県東部消防広域化	進捗状況は？	H19年頃に消防庁から広域化を推進する働きかけがあり、H23年3月末に滑川・魚津・上市・舟橋で県東部消防広域化協議会を発足して進めていくことになりました。広域化の方式は一部事務組合とし、本部の位置を魚津に、デジタルの指令台も魚津に置くことに決まりました。実動部隊となる署(所)は現在の滑川・魚津・上市の3消防署を引き継ぎ、今までなかった舟橋にも分遣所を設けます。また、はしご車は滑川・魚津に各1台ありますが、更新時期には1台のみ更新し、魚津にも上市にも行ける滑川に配置してはどうか協議しているところで、消防力を低下させないで組合とした広域的な消防力の強化を図ります。
並行在来線	黒字で運営するには多くの方が利用しなければならないが、利用したいと思っても駅に駐車スペースがないと車を利用してしまふ。ぜひ駐車場・駐輪場の整備を。	高齢化社会になり利用者は増えるの見込んでいますが、多くの方に利用していただかないと採算が合わないので、多くの方がどこで利用されるかその接点だけを求めたいと思っています。魚躬地区で設ける場合、駐車場は北陸富士周辺を一つの候補としてあげていますが、車のことだけを考えると駐車場を整備すると徒歩で済む近隣住民の方が逆に駅から遠くなるという問題、また遺跡調査の問題などもあり、頭を悩ませている状況です。
新幹線	滑川は立山連峰と日本海が見えるすばらしいロケーション。市から鉄道運輸機構に働きかけて、新幹線開通前に住民が体験できる機会を設けてほしい。	住民が新幹線の醍醐味を先に味わえるよう、ぜひ実現させたいと思います。
観光の強化	全国的に有名な地元出身の室井滋さんやホタルイカなどが滑川市と直結するようタイアップした観光に力を入れるべき。	がんばります。
信号機設置要望	県道1号線(笠木地内)に信号機をつけてもらいたい。	既に聞いておりますので、滑川警察署に要望をあげています。
市民会館大ホールの耐震問題	当時の担当課長がIs値の改ざんを指示したと同じ部署の職員が認めているのに、当の本人は否定していると聞いたが、どうなっている？	分かりません。現在、商工会議所会頭、弁護士等による調査委員会にて調査中です。

## 早月加積地区の主な提言等と進捗状況

提言等の項目	H24春に開催した「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
国際交流員の廃止	子ども第一主義を掲げているはずだが、国際交流員による英語教室を楽しみにしている子どもたちがいるにも関わらず、廃止する理由は？噂で中学校には外国語講師が配置されていると聞いたが真相は？	市役所内にはCIR(国際交流員)1人を、中学校にはALT(外国語指導助手)2人を配置しています。CIRは国際化の行事や保育所等に出向き英語教室を開いたりしていますが、現在、スタート当初あったCIRに対する国・県の助成はなくなり、県内で配置している自治体は半分ほどになったため、廃止することになりました。但し、この経費はやがて姉妹都市であるシャンバーグ市に市民や小中学生が訪問する財源に充てたいと考えています。なお、CIR廃止後、ALTは小中学校をまわるだけで精一杯の状況ですが、保育所等をカバーできないか、また日本在住の外国の方等の活用についても考えてみたいと思います。
ハセ川自動車の問題	自動車解体業をしており、排水は外に出さず地下浸透と聞いているが、どのような化学物質が流れる可能性があるか、市で調べているか？市ではどう考えている？	市としては思わしくありませんが、市は許可権者ではないので、結果的には県から許可が下りています。5月初めに担当課が事情聴取したところ、雨天時に屋外に流出するとの指摘を受けており、雨水分離槽の設置工事等を予定しているとのこと。なお、市で地下水の確認は予定していませんが、今後の状況を見て、何かあれば県と相談して対応したいと思います。